

言葉一つで世界は変わる

岐阜市立長森南中学校 3年

渡邊りな(わたなべりな)

言葉とは何か。みなさんは考えたことがありますか？日々生活する中で私たちは色々な言葉を使い、会話をしています。例えば家族。朝起きて一番初めは家族への挨拶で「おはよう」や「行ってきます」など。少しは会話をしますね。次に近所の方々。また、私たち学生はほとんどが友達と一緒に登下校をしています。そこでは会話が沢山あります。そんな言葉と共に生活する中で、会話をするにあたり、私たち人間は様々な言葉を使って意思の疎通をはかります。もし言葉がなければ集団生活など出来なかったでしょう。そんな言葉には種類があると私は思います。大まかに言えば、天国言葉と地獄言葉です。天国言葉は、他に花束の言葉やプラス発言とも言い、地獄言葉は、ナイフの言葉やマイナス発言とも言います。

例えば、天国言葉では、「ありがとう」や「です・ます」の敬語などです。「ありがとう」は相手への感謝を口に出して伝えることができます。また、敬語を使うということは相手を尊重していることが伝わります。対して、地獄言葉では「うざい」や「アホ・バカ」などです。これらの言葉は相手を精神的に傷つけます。また行き過ぎるといじめにまで発展してしまいます。そんな「言葉」に対して、東京大学院総合文化研究科の岡ノ谷教授は、「言葉とは、心の中に概念としてイメージできる要素をさまざまに組み合わせて、新しい概念を構成し、自分や他人に伝達することのできる道具だ。心に浮かぶ要素の一つ一つは、単語に相当する。だから、いろいろな単語を一定の規則で組み合わせて新しい表現、無限の表現ができるのが言葉だ。」とおっしゃいました。この考えから、言葉は人間だけの特権と感じられました。また、言葉は無量大なのだと言えます。

ある時私は、言葉は深いものだと感じました。国語の討論の時間です。議題は「宿題は必要か必要ではないか」です。みなさんは必要ですか？それとも必要ないですか？考えてみてください。

私は必要ではないと思います。理由はワークなどの問題集だと答えを写すだけの作業になってしまう人が実際にいるからです。なので、宿題はやりたい人だけがやれば良いと思います。ですが反対に、必要な人の意見は、受験のためにも長時間机に向かう癖をつけるためや、嫌いな人でもテストで点を取るためなどがありました。ここで言葉の受け取り方に違いがあります。それは宿題の範囲です。ワークなどを含めての宿題のことなのか、自主学習も含めての宿題のことなのかです。意見交流の時にある子が「宿題がワークだけなら必要ないかな。自学も含めてなら必要だけど。」と言いました。この子の意見は、勉強の仕方は人それぞれだから、強制的な宿題は必要なく、自分に合う勉強をした方が役立つということでした。言葉の単語一つ一つにも沢山の受け取り方があります。他の例えとして、授業は必要か？などです。授業という言葉の範囲に受け取り方に違いがあります。

また、「言葉足らず」という言葉があります。みなさん知っていますか？これは、SNSトラブルによくあることです。現代は「エグっ」や「ヤバっ」など省略された言葉がよく使われますね。私も使っています。しかし、自分は相手を褒めようと思ったとしても相手が、そう受け取れないケースがよくあります。内容によっては相手が鬱になってしまうこともあります。

これらのことから、言葉一つでも沢山の意味があるとわかります。それは良い影響を与えることもあれば、悪い影響も与えてしまうということです。もちろん、言葉の受け取り方にも関係はあります。だからこそ言葉は深いものだと言えるのです。しかし、一歩間違えると言葉は自分の又は相手の世界を変えてしまいます。私達はそんな言葉と共に生活しているのです。使い慣れた言葉だからこそ、全ての人が今一度言葉の使い方の意識を改めなければなりません。

私は、日常会話の一つひとつを意識しながら生活していきたいです。